



大手通坂之上町地区再開発事業

(仮称)

米百俵。プレイスから 始まる新たな未来

その一 新しい学び

かつて先人は未来を見据え、長岡のまちの礎を築きました。そして今も同じ志を持って活躍する人がいます。次代を担う若者たちにその想いを伝え、未来へとつなぐ「米百俵プレイス（仮称）」への期待の声と魅力を紹介します。

岡中心市街地整備室 ☎ 39・2807

いよいよ連載企画 スタートじゃ！

「新しい学びの場」をつくった先人

こばやし とらさぶろう
小林 虎三郎

文政11(1828)年～明治10(1877)年

長岡藩士。江戸で洋学者の佐久間象山に学ぶ。戊辰戦争後の藩再建を担い、国漢学校を開校。



長岡藩の大参事を務めた小林虎三郎は、長岡の教育の理念となる「米百俵の精神」を提唱した人物。

明治3年、三根山藩から送られた米を売り、その資金で国漢学校を開校。それまでの藩校とは異なり、身分を問わず誰でも学べる場をつくりました。さらに、歴史や文化を学ぶ国学・漢学に加え、当時最先端の洋学・医学を取り入れて長岡の未来を担う人材を育てる近代教育の基礎を築きました。

のちに、井上円了が日本初の哲学専修の学校・哲学館（現・東洋大学）を、島峰徹が東京高等歯科医学校（現・東京医科歯科大学）を創立するなど長岡ゆかりの人物が新しい教育の場をつくったのです。

夢中にさせる“場所”が人を育てる

小学2年生のときに、青少年文化センターで科学の楽しさと出会い、この世界にのめり込みました。今の私があるのは、あの場所があったからです。

ロボットやプログラミングに興味を持ってもらうには「最初に夢中にさせる」ことが肝心だと考えています。この活動を通して長岡の産業を担う人を育てたいという想いがあるんです。

実際には、今、長岡で技術者の中に



ながおか技術教育
支援機構 TESONA
理事長

高橋 ゆたか さん

17年前から市内で工作教室やロボット教室などを開催し、科学技術の魅力や面白さを広める。製造メーカーOBや元教職員、市内学生などのメンバーと共に活動中。

して活躍している人や世界に目を向け、研究者になった人もいます。

米百俵プレイスには、誰もが、いつでも「ロボット」などの先端技術に触れられる場所になってほしいです。人を育てるには、興味を持つきっかけや刺激を与えてくれる、そんな拠点が必ず必要になってきます。

将来、「米プレ」が世界大会などが開かれるロボコンの聖地になってくれたらうれしいですね。

米プレ
こんなトコ

子どもたちの「もっとやって
みたい」をかなえる場所に



「子どもラボ」では、学校の授業のその先を学べる体験型プログラムを実施。プログラミングやロボット、サイエンス、アート、「しごと体験」などの多様な学びから未来を生き抜く力や個性を育みます。



▲先行実施した「めざせYouTuber」。長岡の魅力発信動画を制作しました（2月24日）